

# 勝林寺寺報

清淨歡喜智慧光

不斷離思無稱光

超日月光照塵刹

一切群生蒙光照

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る。毎年わかつてているようでも、四月を迎えるときにまどまつた積雪があつただけで、おおむね暖冬だつたせいか、桜の開花も早まり、お城山の桜はもう満開を過ぎて散り始めています。夜桜見物はまだ寒くてコートがいりますが、春の陽光はコロナで沈んだ気分を緩めてくれます。この春の穏やかな日の光は清らかで、その陽に温んだ雪解け水は、淨い小川の流れとなっています。草も、花も、虫も、特に小鳥たちは大いに歓びさえぎり、自然とともに感じるので喜びが、智慧の光なのだと感じられます。

親鸞聖人はこのようないく和讃も歌われています。草も、花も、虫も、特に小鳥たちは大いに歓びさえぎり、自然とともに感じるので喜びが、智慧の光なのだと感じられます。

親鸞聖人はこのようないく和讃も歌われています。草も、花も、虫も、特に小鳥たちは大いに歓びさえぎり、自然とともに感じるので喜びが、智慧の光なのだと感じられます。

親鸞聖人はこのようないく和讃も歌われています。草も、花も、虫も、特に小鳥たちは大いに歓びさえぎり、自然とともに感じるので喜びが、智慧の光なのだと感じられます。

罪障功德の体となる

こぼり（氷）とみず（水）の「」とくじて  
さはり（障り）おほきに徳おほし

聖人は吉水の法然上人の元で、お念佛に出遇われておよそ六年の歳月が流れた承元元（1207）年、「承元の法難」と呼ばれる大事件が起り、越後の国に流罪となられました。越後は但馬よりも豪雪地帯で、今年もかなりの大雪だったようです。現代のようにエアコンもストーブもない昔、京都でしか生活したことのない都会人の親鸞さまが、雪深い越後の田舎で生活するのは、かなり厳しい体験だったのだと思います。とは

いえ、越後の地にも春は来る。雪に埋もれ、氷に閉ざされた生活に春のひかりが注ぎ、氷が溶けだし、雪が消えて花の咲く季節の喜びは、雪深き田舎に暮らす者にしか味わえないものです。こうした体験を通して、この「和讃は詠われたのではないか」と思います。

私たち今は、煩惱の大雪に埋もれ、三毒の氷に心が凍てつき閉ざされています。三毒とは貪欲（とんよく）、瞋恚（しんい）、愚痴（ぐち）。食とは、むさぼることで際限なくあれこれ欲する」と。瞋恚とは、不快なものに対して激しく怒つたり、妬んだり、恨んだりすること。痴とは、無知である」と。今世界は三毒の豪雪に埋もれた真冬にあるかのようです。人の欲が北極の氷を溶かし、憎み争う核の熱が一瞬にして全人類の命を奪おうとしています。

今日のような穏やかな春の日を過ごしていると、すでに極楽に暮らしていくように感じられることがあります。しかし、すぐまた暑い夏に悩み、寂しい秋に沈み、また厳しい冬に閉ざされることもあります。親鸞聖人がこの誕生に同じ争いを繰り返し、同じ苦しみを繰り返しています。この繰り返しの闇は人の創り出した光では決して破れない。月の光や太陽の光も、この娑婆の光であり限界があります。その限界を超えて一切のものを照らす光のあることが「切群生蒙光照」とうたわれています。新型コロナウイルスのワクチンが一切の人のために打たれ世界を救うのか、相変わらず格差の中で争いを繰り返すのか、阿弥陀さまに見つめられていくように思います。

（文責 住職）

佛教婦人会総会について  
先月号でお知らせいたしました勝林寺佛教婦人会総会は、コロナウイルス感染予防のため、各地区評議員さんの代表参加で開催することとしたします。各会員の皆様には、大変申し訳ありませんが、事情を理解の上、ご了承いただきますようお願いいたします。

佛教婦人会総会  
日時 四月二十四日（土）午後二時より  
場所 勝林寺本堂

内容 報告総会・物故者追悼法要  
\*作品展示・アトラクションは行いません

（敬称略）  
三月二十八日  
出石町坪口 坂本さわ子様 九十二歳

ご報告

三月二十日久しぶりに、本堂にお正信偈を唱和する皆さんのが響きました。

美しい莊嚴の中の阿弥陀さまが、ほほえんでくださっていましたよな気がしました。今にも雨が降り出しそうでひやひやしましたが、そのせいか気温が下がらず、換気のために扉を開け放していつも寒さを感じる」となく過ぎました。本当に、ありがたいありがたいひとときでした。

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齋藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

一〇日（土） 勝林寺 観桜会（中止）

一〇日（土） 古田博己宅 三回参  
一一日（日） 岸下真一宅 一二三・一五回参  
一五日（木） 齐藤和代宅 七回参  
一七日（土） 清水あい子 三回参  
一四日（土） 勝林寺 佛教婦人会 総会

四月 勝林寺 予定

三日（土） 出石組 組会（文書審議）

また道元禪師は「只管打坐」(しかんたざ)といふことを解かれました。そのいずれもが、このひとすじの選びの道を意味する言葉であります。法然上人は、その仏教理解を通して、念仏だけでいい、そのほかには何もしない、もっぱらに称名念佛して生きるといふ、「こそ、まことの人生がひらけてくるものぞ」と明かされました。そのことをさして、「専修念佛」(せんじゆねんぶつ)といわれたわけであります。また親鸞聖人においては、それが信心の道としてとらえられました。ひとえに教法に順順し、そのことにもとづいて自分の姿を信知しつつ、それをいよいよ深めてゆくといふ、仏道はここにきわまるというのが親鸞聖人の教えであります。「唯以信心」(ゆいしんじん)とはそのことをあらわしております。また道元禪師の主張は座禪第一主義です。世俗の生活をありすてながら、一にも二にも座ることが大切で、この座禪こそさとりではないといふことがありました。「只管打坐」とはそのことを意味するわけであります。これら鎌倉新佛教の祖師たちは、それ自らの主体をかけて、たったひとつ道を選び取り、「こ」に仏道の究極を見出し、そこに人生の真実を求めて生きてゆかれたのであります。この祖師たちの主張は、念佛といい、信心といい、座禪といい、それぞれがつた道のようにも思えますが、それらはまた同じくお釈迦様の教えを受け継ぐものとして、もつとも深いところでは、ついにはひとつに帰するものであります。法然上人における「専」といふ、親鸞聖人における「唯」といふ、道元禪師における「只管」(ひたすら)という言葉は、いずれも「のよくな人生における真実を求めて生きた、いちばなる選びの営みを意味

するものであって、鎌倉新佛教の特性をよく物語っているものであります。

いま私たちが学ぶ親鸞聖人の教え「唯信の道」とは、まさしくこのようないちばなる仏道の実践、人生におけるまことの選びの道を教えてくれるものにはなりません。



私たちの心にも眼にも、いよいよスマッタが覆い、自分自身の歩むべき道が、さだかに見通しにくくなってきた現代において、この鎌倉新佛教の祖師たち、ことには親鸞聖人が教えられた選びの道は、おたがいに心して学ぶべきことではないでしょうか。私をよく生きるための「教え」を学び、それに励まされて、現代人にとって、偉大な先達の足あととしての「教え」を学び、それに励まされて、親鸞聖人の教えであります。「人生をおもう」終わり)

## 如来さまより最も遠い身が

### 実は最も近い身でありました

和氣良晴

阿弥陀如来の光明に照らされて教えに生きているからこそ、自ら煩惱を抱える愚かさに気づかれます。和氣師の『慶ばしいかな』の人生には「如來さまの」本願に出遇いましたときに、

その智慧の光に照らされて浮かび上がる私の生きさまは、『悲しきかな』としか言へようのない姿であります。そして、「私の『悲しきかな』と『悲しきかな』としが言へようのない姿でありました」とあります。そして、「私の『悲しきかな』と『悲しきかな』としが言へようのない姿でありました」とあります。(中略) 光に、すでに照らされていたからこそ、

その暗さがいつそう光のなかで鮮やかになるのです。(中略) 光に、すでに照らされていたのであります。如來さまより最も遠い身が、実は最も近い身でありましたと転ぜられる」とへの感動であります。如來さまより最も遠い身が、実は最も近い身でありましたと転ぜられる」とへの感動であります」と、阿弥陀如来の光明に遭遇した喜びが語られています。

弥陀の光明に遭遇する前は、とても遠く感じられていましたが、その光明に摂取され、教えに生きる中で、阿弥陀如来が最も身近な存在であったと受け止める世界があるのです。そして、「すでに照らされていました」と述べられているように、阿弥陀如来の光明は私が気づくよりもはるか前からあきることなく照らし続け、はぐくんでくださっています。教えに遭遇したからであるか前からあきることなく照らし続け、はぐくんでくださっています。教えに遭遇したからであるか前からあきることは私です。しかし、私が教えに遭遇したのは、私が気づくよりも前から育まれていたからです。育まっていたことにも気づかず、遠い存在だと思っていたのは私でした。そこには、阿弥陀如来はもう遠い存在ではありません。誰よりも、最も近いのです。

(「大乗」より引用)

どさん

勝林寺寺報の中に、このコーナーを設けさせていただいてからずいぶん月日が流れました。おかげさまで「いつも楽しまれてます」とお声をかけてください

かる方、時にはお手紙をくださる方もあり、多くお読みいただけております。ただ、コーナーの名前まで憶えてくださる方は少なく、「どさん」とか「どさんなどといわれる」ともあり、そんな時は苦笑いでしまっておりました。先日、遠くからお参りに寄ってくださった方が『じほん』楽しく読ませてもらっています」といつてくださったと、話題にしていただきとに感謝しながらも、その時は住職と笑い合っていました。

「どさん」の由来は、十数年前、『講師として来てくださった吉勝先生が「寺」という漢字は、上下に分けると「土」と「寸」、すなわち「どさん」です。寺に来たら、遠慮なく格好も気にせず、どさんと座つてお聴聞しましよう」とお話をしました。だから、寺報の編集を任せられたとき、迷わずこの名前のコーナーを設けたのです。あれから多くの時が経ちました。皆さんに「どさん」と座つていただけていいかも定かではないました。だから、寺報の編集を任せたとき、迷わずこの名前のコーナーを設けたのです。あれから多くの時が経ちました。皆さんに「どさん」と座つていただけていいかも定かではないのに、今は「どさん」もいいなと思います。お念仏に遭遇されたすべての方に、阿弥陀さまが必ず救つてくださるお慈悲の海に「どさん」とつかつて生きてもらいたい。流れは常に移るいふ次々と湧いて悲しみや怒りや不安は尽きないひとところには留まれず、煩惱は消える」となけれど、それらも含めて包み込んでくださる大きな海の中にあるありがたい毎日。(文責 坊守)